



←毎年7月25日に開かれる川向こうの柴又の花火大会にそなえて東京側の葛飾警察の看板がたてられた。

→暑い夏。江戸川の水も煮えそうだ。

東京周辺だけ雨が降らない。

この夏の水不足はどうなるんだろうと、いまから心配する声もあるようだが、群馬県や栃木県などで雨が降っているから心配しなくていいらしい。

「それにしても一週間が過ぎるのが早いねえ」

舟頭さんがいった。

「そうだねえ、早い、いつもと違う」  
ヤツさんが同調する。

「やっぱり相撲のおかげだねえ」  
と、私。

一週間前から大相撲名古屋場所が始まった。今場所はこれまでのようなベテラン力士ではなく、若手が幕内上位に名を連ねている。

筆頭は貴景勝（たかけいしょう）と阿武咲（おうのしょう）。ともに二十歳。アクロバチックな相撲をとる宇良（うら）に同級生の御嶽海（みたけうみ）。加えて力強い相撲をとる北勝富士（ほくとふじ）。

相撲ががらりと変わった。体を大きくして体重をふやせば勝てるというこれまでの常識が通じないことを証明し



## 今週のクマ

→日陰に入り込み暑さをしのぐクマ。体温調節のために舌を出す。



→江戸川の河川敷を彩るムクゲの花。韓国の国の花だそうで日本の桜と同じように記章(マーク)などにも使われているようだ。



てくれた。貴景勝にしても阿武咲にしても宇良にしても体重はけして重くないし石浦(いしうら)という力士も軽量だ。毎日、毎日、小さい力士が大きな力士を土俵にころがす。それが見ている者をなぜかスッキリさせてくれるのだ。いまのところくる日もくる日もそんな場面が繰り返される。だから一週間が過ぎるのを早く感じるのだ。

日曜日には宇良が初めて横綱の白鵬に挑戦した。立ち会い、横綱は左に体をそらして新人の宇良を裏返したと、あとでインタビュでいっていたが、横綱のほうはかなり意識していたのだろう。

それにしても今場所は日本人横綱の稀勢の里が休場して、そのぶん相撲がおもしろくないかと思っていたが、若手のしかも小兵力士が活躍するものだから横綱の休場を感じさせない。

相撲は体重だというので各部屋の親方たちが、やたらと弟子を太らせることをしていたが、ただ体を大きくすればいいという考えが違うのではないかということを気づかせてくれた。やはり相撲はただのデブのぶつかりあいではない。